

HAT-J 北海道支部だより

# しれとこすみれ



第5号 日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト 2001年4月15日



## このところながめた山

渋谷 正己 (JAC 4795)

一年前、二千年はじめ、正月、ツブギン峠にて、東南にアノブ財、北にニギル西にダウキリ、何と豪華なこと 4500 ほどの高度、高山病にもならず三日間も楽しんでた。

2000年10月1日、アノ功上空で夜が明ける、目下にはピンク色になりはじめた白い山、端正な雪の尾根がどこまでも続いている、そんな尾根の波のはてには、いくつかの大きな山塊がいくつ

ものある、山名はわからない。そんな山々が強くピンクとなる。10月3日からのニューヨーク、版画グループ展出品の折のことである。こんな山の続きの森に山の仲間のふくろうたちが身をよせ合って、言い合っているのだろう。

旭川市東鷹栖東1条2丁目

Tel&Fax 0166-57-3019

日本山岳会々員、全道展会員、  
日本版画協会準会員

先週、丸瀬布のキャンプ場から平山～比麻良山経由でニセカウシュツペ山に出かけたが、天候悪化で登山口で引き返し、キャンプ場での酒宴となった。

翌週、天気も良いので札幌を早朝出発し、中越⇒古川林道を目指した。

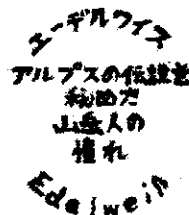
前日、事前に森林管理所事務所に電話し鍵ナンバー1732と確認して林道ゲートに到着するも、ゲートは、開かず30分も苦闘、そのうち他の登山者も加わりナンバーリング合わせに何回か試みるも開かずの門と化す。何組か、諦めて帰ってゆく組も現れたが、ゲートに駐車して登山口まで歩くことにする。本来の登山とは、こうあるべきなのだと言いつけさせ、しかし林道歩きは長く疲れた。昼には、帰るつもりがとんだ予定外のアルバイトになってしまった。展望は利かないが、しばらく歩くと左前方の沢を隔てて尾根の頭が見えてきた。もう20年前に清川コースから登った記憶が蘇ってきたが、標高1500m付近でガスが出始め岩場からは、展望がひらけな。ついていない山登りになりそうな予



感。稜線上1570mを過ぎてガスの切れ目から待望の大槍、ニセカウシュツペ山山頂が顔を見せ始めた。大槍の大迫力に圧倒されながら山頂に到着、表大雪の大きさ、広さに改めて感動してしばし静寂を楽しむ。やがてホツツと大槍をトラバースして来る登山者が現れ始めたのを見て下山にかかった。

車までの林道歩きの長かったこと。

1999.8.19



(関根寿雄『旅の標本Ⅱ』より)

## 瓊多窟 100 年

旭岳ビジターセンター 池永 甞次

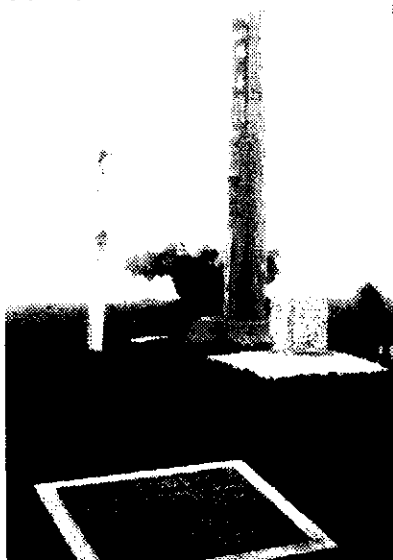


旭岳山頂にある一等三角点の名称が瓊多窟(ヌツク)である。明治33年9月10日旭岳山頂に一等三角点を設置する事が決められ、翌34年10月2日標石が埋定されたのである。以来早くも今年で100周年の記念すべき年となった。当時は旭川を出発して旭岳に登るには少なくとも3日を要した。波荒い忠別川を遡行し、笹を分け倒木に躓き、熊におののき野宿を重ねての事だから、その困難さはロープウェイを利用する現在の一般的登山の範疇を越えて、探検と呼ぶにふさわしい。重い標石や付属の物品を背負っての探検行動には危険が伴い、辛酸をきわめた事である。人夫の給金は一日僅か七拾銭にして、富士山の強力伝以上の物語が書ける事柄であったであろう。

昨年9月に100年記念行事が行なわれ、標石の近くに由来を刻んだ石版が設置された。記念登山会の参加者で、小雨の中除幕式を行ない、往時の三角点設置の苦勞を

偲んだのである。ちなみにこの記念の石版は旭岳温泉からヘリで僅か5分で運び上げたのだから、この100年におけるすべての進歩はすばらしいものであった。

夏のお花の季節、秋の紅葉の季節には一日3000人から5000人の観光客・登山客をロープウェイは高山帯に上げてくれる。2時間登れば100年をへた瓊多窟の三角点で雄大な大雪山の眺望を楽しむことができる。多くの人に自然のすばらしさを満喫してもらい理解してもらうことはよい事である。たゞ少しずつ、場所によっては急速に自然が壊されている事にも気付いてもらわねばならない。環境にやさしくとか自然に優しくとか言われるが、曖昧で何をどうすればよいのか一般の人には分かりにくい。入山規制をしたり、入山料を徴収して自然保護をしっかりとしないと、瓊多窟は嘆く。



## 「初めて登ったメキシコの山」

宮崎 初恵

1999年12月29日～2000年1月3日の6日間のツアーでメキシコのトルカ山(4704m)に登ってきました。トルカ山はメキシコシティの近郊にある山でメキシコの中で4番目に高い山です。メキシコシティは海拔2240mのところであり近



郊の山は3000m以上の山が連なっています。トルカ山は南峰と北峰があり私達は北峰のピーク(4620m)に登りました。頂上の下にある火口湖の手前(4200m)まで車で行き、標高差400mの万年雪のない岩尾根の登山道を登り、北峰を往復しました。登り3時間半、下り3時間ですのでむずかしい山ではありませんが、火山の山ですので足元が不安定で歩きにくいのと、高山病の症状を感じながらの登山だったので、登りよりは下山の方が厳しかったです。4200m地点で車を降りた時に、私は高山病の症状はでませんでした。4300mを越えると手と足の指先の感覚が鈍くなり、頭がぼーっとして集中力がなくなってきました。一步一步慎重に登り大きな岩が重なったところを越えると山頂です。1

月1日の登山だったので山頂に立った時は、感動しました。火口湖の辺には地元の人達が車で遊びに来ていました。私達にとって4000mは高所ですが、地元の人には慣れた高さでドライブコースになっていまして。メキシコの山は高所順応するのに手軽にできると感じました。



(渋谷正己作)

## 『平成 12 年度の活動報告』

## HAT-J 北海道支部

- ◎ 1月22日(土)  
新年会 (出席 11名)  
宮崎、枝並(正)、森谷、伊藤(ナ)、平岡、花島、小野、杉林、菊池、五十嵐、松村
- ◎ 6月4日(日)  
神威岳清掃登山(札幌山岳クラブと合同)(参加 4名)  
杉林、五十嵐、宮崎、他 1名
- ◎ 6月10日(土)  
HAT-J 北海道支部総会  
(出席 14名、委任状 28名)  
宮崎、花島、伊藤(剛)、坪原、真嶋、杉林、榊田、福沢(益)、柏木、枝並(正)、枝並(夕)、伊藤(ナ)、平岡、今井  
☆親睦会『つる』(出席 16名)  
宮崎、花島、伊藤(剛)、坪原、真嶋、杉林、榊田、福沢(益)、柏木、枝並(正)、伊藤(ナ)、平岡、今井、佐藤(英)、森谷、大内
- ◎ 9月23日(土)、24日(日)  
十勝幌尻岳清掃登山、雨天のため白雲岳(然別湖)に変更  
坪原、真嶋、杉林、宮崎、花島、福沢(益)、枝並(夕)、伊藤(ナ)、和田、長屋、河合、道場(優)、道場(信)、大内、五十嵐、尾崎、増子、高木、加藤(敏)、  
【道内参加 19名】  
☆道外 HAT-J 会員 28名  
(青森支部 17名含)  
☆一般参加 9名 計 56名  
(講演会のみ参加の人数は含めていません)
- ◎ 9月30日(土)、10月1日(日) 空沼岳、万計山荘小屋当番(参加者 6名)  
宮崎、杉林、五十嵐、伊藤(ナ)、枝並(正) 他 1名

## HAT-J 北海道支部 2001 年度活動計画

北海道支部も 6 年目になり、支部会員の皆さんと共にこれからのわたしたちに出来る活動を考えながら、新たな気持ちで続けて行きたいと思えます。どうか皆さんのご協力をお願い致します。

1. 6月3日(日) 神威岳清掃登山(札幌市) 日帰り 8時登山口集合 15時解散
2. 8月25日(土) ~26日(日) 十勝連峰 十勝岳 2077m(美瑛町)  
北海道の火山の中でも火山活動の活発な山です。  
HAT-J10周年記念全国一斉清掃登山に呼応して実施いたします。  
26日十勝岳温泉望岳台 8時集合 14時解散
3. 空沼岳・万計山荘清掃登山(山荘泊) 日程は、4月に決めます。
4. 9月23日(日) 羊蹄山 三コースに分けて実施します。  
京極、真狩、俱知安(半月湖)コース、日帰り 6時それぞれの登山  
6時集合 16時解散
5. 10月28日(日) 札幌岳 日帰り 8時登山口集合 15時解散

◎連絡先 HAT-J 北海道支部山行部 杉林ひとし  
TEL & FAX : 011-642-7866  
〒060-0012

札幌市中央区北 12 条西 23 丁目 1-2 702 号

※申し込みは必ず、ハガキか FAX にてお願い致します。

## HAT-J 北海道支部 5 周年記念中止になった清掃登山 坪原美治子

地元の会員を増やし HAT の活動を理解してもらうには絶好のチャンスと 5 周年清掃登山を日高山脈の展望には最適の十勝幌尻岳に決定した。年明け早々先ず、日高山脈を抱える帯広市の協力を得たいと訪問した。日高に入るには宿泊施設が無い、公共交通の便が無い等の悪条件が揃っているが、市として大

型バスを提供してくれる事、宿泊施設は登山の入口である八千代の植村直己帯広野外学校を紹介してもらる事で土台が出来上がった。

植村直己帯広野外学校は今年 15 年目を迎え、1988 年に大型のログハウス校舎が建設されているが、そこを私達の記念セレモニー、宿泊施設として利用させて頂くことになった。5 周年として何か記念になることをと考え、昨年、帯広市の真嶋さんが天山山脈のポベエダと一緒に登った渡辺玉枝さんをお願いして頂いたが快く引き受けてくれ講師は決定した。地元の会員が何せ少なく、人数は 3 人ばかりで道東ブロック会議と称して打ち合わせをしたり、日々気が付くことを副支部長の真嶋さんと 2 人 3 客の日々が続いた。だんだん日が迫ってくるに連れ、問題が出てきた。宿泊施設は 30~40 人が限度、しかし申込みが 70 人にも膨れ上がってしまった。私達としてはこれでは、当初の目的である地元の会員を



増やすとか、HAT の活動を理解して頂こうという段階ではなくなりこの時点で地元の新聞等にも参加募集を一切しない事にした。又、一度に大量の登山をすることが問題視されている昨今、これ以上の参加者は断ざるを得ないと判断。スタッフの間で意見の食い違いが有ったが、その事理解をして頂きたく何人かの申込者に欠書でお断りをせざるを得なかった。この決定は私としてはとても辛いことだった。せつかく申し込んで頂きながら、誘っていないが断る事の気まずさ、そんな折り田部さんにも来てくれるとの情報が入った、真嶋さんとやるきゃない！と気持ちを切り替える。

札幌のスタッフと観察登山をするため予定を立てるが週末になりと必ず雨になりなかなか思うようにならない。日が近づいて来るに連れ天気予報とにらめっこ。何せ 5 周年パーティも野外で豪華にチャンチャン焼きをやろうと遠軽の会員がまずき



6 匹も釣ってくれている。食事担当者も準備万端。そして、当日参加者が次々到着。休む暇もなく宿泊施設の掃除からチャンチャン焼きの野菜切り等を手伝ってもらう。スタッフは講演会場作り等をし形は整った。せめて講演会だけは沢山の人を呼ぼうと新聞にも載せてもらったが、野外学校は帯広市から車で 40 分程かかり沢山の人に来てくれるか心配だった。それでも 20 人程の人が来てくれ会場は満杯状態の中で「50 歳からの 8000m」と言う題で渡辺玉枝さんの講演が始まった。あの細い体にももの静かな口調どこに 8000m を登るパワーを持っているのかしら。高所の山に登るきっかけから始まり美しい雪山の数々のスライドを交えた話に皆引き込まれていった。講演会終了後、野外学校は自主運営の為来場の方々にも会場にカンパ箱を用意し協力をお願いした。又、今回は活動資金にする為一人一品持ち寄りバザーを実施、田部井代表の「みんな売りましょーう」の一声で殆ど売りさばくことが出来た。

霧雨状態の中交流会が始まり、一日遅れで田部井代表の 61 歳の誕生

日を花束と記念品の小豆（本人の希望）を贈呈してお祝いをした後ビールで乾杯。チャンチャン焼きも大盛況できれいになくなった。話が弾んでいたが霧雨と冷え込んで来たので中に入り自己紹介、活動報告等がなされた後就寝。スタッフは明日の天気を気懸かり

ながら寝袋のファスナーを上げた。

朝 4 時起床。野外学校の関係者である北沢氏がインターネットで天気予報を知らせてくれ、午後から 50% の確立との事。今回の十勝幌尻岳は登りに時間がかかり急な為スリップする危険があるためスタッフも頭を抱えたが勇気を持って中止を決定した。日帰り参加者へ中止の連絡をし、宿泊登山者には帯広市のバスに乗り換えてもらい札幌のバスと 2 台で然別湖に移動。雨は降っていたが 1 時間半程で登れる白雲山を 2 班に分かれて交差登山をした。下山後ずぶぬれの体を温泉で洗い流し閉会式となった。「やっぱり登らなきゃだめなんだ。」の田部井代表の力強い言葉。元気だー。参加者の何人かに一言ずつ感想をもらい、「参加して良かった」の声に今回予定していた山には登れなかったが企画して良かったとホト肩の荷を降ろした。

参加人数 61 人(内日帰り参加 5 人)  
植村直己帯広野外学校

カンパ金 11,853 円

バザー売上金 13,570 円



＜フョブのりんご園よりコンデリを望む＞

昨年、私は2度パールを訪れました。1度目は、11/13～25の日程で、フョブのりんご園整備が目的のHAT-J東海支部りんごネットへの参加と2度目は、12/20～1/15でロジエ東峰遠征のためのパールでした。

第1回植樹カーに参加してから4年振りのルラに着くと飛行場の様子が変わっていました。以前あった空港の建物を新築するとかで大々的に工事が行なわれていて、滑走路も以前よりなだらかで広くなり、地面もしっかりと踏み固められていました。それでも、何故か“ふるさと”に帰った様な、懐かしい様な不思議な気持ちになった。フョブに着くと、すぐ私達が植えたりんごの木を見に行った。下の畑の方はだいぶ大きくなっていました。山側に植えたのは野菜畑の中に埋もれりんごの樹の見分けが付きにくく、フョベリがっかり

もしました。でも、朝テントから出て顔を洗いながら大きくなったりんごの樹を眺められるのは嬉しいものでした。3年前、田部井さんが、りんご園をパールから借用する契約を交して来たと言われ報告されその時見せていただいた写真からは想像も出来ませんでした。石垣を作り、段々畑にし、上部には、貯水槽を作り水を引き周りには金網をめぐらし、立派なりんご園になっていました。私達もかまや鍬を使い、草をむしり木の根を掘りおこし、石を積み剪定、水を引くホースの取り替えと、りんごが実る事を夢みながら一日汗を流しました。その夜のウェルカムパーティーは村人を招待する形で行われましたが、ほとんどの村人が集って来て佐藤伸一さんの活躍と苦勞を思い知らされました。地道な佐藤伸一さんの行動が村人との信頼関係を作り上げたのでしよう。

りんご園の整備から一ヶ月後ロジエ東峰遠征のため再びルクラに下り立ちました。11月の時の賑わいと、人通りは無く、埃も立たず快適なキャラバンでしたが一ヶ月前にお茶を飲んだロジエのテラスに建物が建っていたのは、驚きました。そして冬支度なのでしょう、ロジエの外壁には切ってきたばかりと思われる薪がづらりと、並んでいるのです。裏山の斜面の木が切られたらしく真新しい切り株が並んでいます。7月の雨期に佐藤伸一さんがりんご園を見に来た時、土砂崩れで近くの民家が埋まり2人の死亡者が出、道路は寸断され2人の捜索に加わった話を聞きましたが、木がこの様に次々と切られているのを見ると雨期になると、各地で土砂崩れが発生するのうなづけるものでした。そして、その薪の需要者は我々トラックである事を思うと、心が痛みました。デインボネを過ぎ、ロジエのまわりまで行くと、





＜ロプジェBCとロプジェ東峰＞

薪になるような大きな木は生えておらず、竹の糞を燃料として使っているのを見た時は安堵しました。私達はロプジェ村から1時間ほどの所にBCを置きました。この遠征でのゴミ処理は、糞尿は上に埋めたが下の方に水場がありその水を使用するため、一抹の不安は拭えませんでした。トレットパーは別にしてキッチンから出たゴミと一緒に焼却、燃え残ったゴミは、缶やビンと共にカマズまで持ち帰りました。残念な事は、キッチンイ達が暖を取るため、木を株ごと燃や

してしまった事でした。私達がハイキャンプにはいった日、後から登ってきた野口健さんパーティは、BCを作らずにハイキャンプに入り、アタック終了後はすぐ次の村へ移動している。高度順化が出来ていればBCをはぶき村を拠点にして、登山すると言うのもゴミを出さず、自然を傷つけずに済むもう一つの方法かもしれません。今、イバレスト街道の発展は目覚ましいものがあります。それと平行して、自然も著しく破壊されて行きます。今後、ゴミばかりでなく、暖を取る燃料についても考えなければ山は、裸となり土砂崩れなどの災害も多くなる事でしょう。りんごの木や松の木を植える事にも賛否両論ある様ですが私達が出来る範囲での木の植樹、又、燃料の供給などの必要性を感じました。美しい峰々を懐いたネールがいつまでも心の故郷であってほしいと願わずにはられません。

## 『第2回 山のトイレを考えるフォーラム～北海道の山をいつまでも楽しむために～』に参加して

宮崎 初恵

第1回はH12.8.29に行なわれ、160名の参加がありました。今回、第2回目はH13.2.3(土)に開かれ150名の参加があり、山のトイレ問題、環境問題に対しての関心が定着しているように感じられました。旭川、函館、芦別等広範囲の地域の方々が参加し、意見交換がなされま

した。登山人口が増えるにつれ、トイレ問題、環境問題は、身近なこととして、考えていかなければなりません。HAT-J北海道支部しても、よりよい環境をめざして、取り上げていきたいと思ひます。

## 編集後記

- ▲ 『しれとこすみれ』第5号をお届けします。昨年同様今回も遅れての発行になり、早くから原稿を寄せていただいた方には大変申し訳なく、お詫び致します。この号のトップには森谷昭男会員から、無理言ってお願ひした旭川在住の版画家でおられる渋谷正己さんより原稿と版画を頂戴しました。忙しいおり、快くお引き受けいただきまして本当に有難うございました。版画に興味のあるかたは、花島書店で見ることできますのでどうぞ。
- ▲ 昨年、北海道支部5周年事業として十勝幌尻岳での清掃登山を計画いたしましたが、あいにくの雨により然別湖畔にある白雲岳に変更して行なわれました。帯広の坪原、真嶋さん等の頑張りにより、渡辺玉枝さんの講演会も多くの参加者のもと無事に終了でき、一区切りとして大きな成果だと、スタッフの皆さんには心より感謝致します。北海道支部はどうしても広い地域に会員がおりますので、どのようにしたら意志の疎通が諮れるのか今後の課題だと思います。
- ▲ 少し私事にもなりますが、HAT-J北海道支部の住所が花島書店内と言うこともありご報告しておきます。私の麻生に有った店が、昨年6月私の自宅に書庫を作りそちらに移転しました。従って、北海道支部の住所も下記のような変更になります。目下、営業はインターネットが主で店に来るお客さんはほんの少しです。この1、2年はITのことばかりしておりますので、何かお困りのことが有りましたら、どうぞ気楽にお尋ね下さい。支部のホームページも下記アドレスで作成しておりますのでお訪ね下さい。ご意見はメールでどうぞお寄せ下さい。

### HAT-J 北海道支部だより 第5号

発行日 2001年4月15日

発行所 札幌市手稲区新発寒6条5丁目8-1  
〒006-0806 花島書店内

HAT-J北海道支部

TEL & FAX 011-686-5611

HAT-J北海道支部のホームページ

<http://www.hanasima.gr.jp/hat-j.index.htm/>

メールアドレス

[hanasima@hanasima.gr.jp](mailto:hanasima@hanasima.gr.jp)

発行責任者 宮崎 初恵

編集責任者 花島 徳夫